

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員で地域密着型サービスの内容と役割を学び理解したうえで理念を作り、安心した暮らしを支援している。	スタッフ全員で考案した理念を掲示し朝の申し送り時音読、常に念頭におき介護に従事している。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	スタッフ研修、朝夕の申し送り時、気付きや注意点など伝達し日々実践に向けて取り組んでいる。	職員間で意見の言える環境作りにこれからも取り組んで行き、統一したケアを図っていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族には毎月のお便りや、家族会等で説明し伝えている。地域住民に対しては町内の回覧を利用し理念や活動内容を伝え、気軽に立ち寄って貰う様お願いしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の方よりお花や野菜を頂いたり、防災訓練の時声掛けを行っている。	出かけた時など地域の方に必ず挨拶をする事を心掛けていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に入っており、文化祭等に参加している。あいご会への協力もおこなっている。町内回覧の利用も行っている。	校区文化祭への参加を継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	学校の研修等受け入れ、交流を図っている。		保育園、学校の訪問や研修等地域との交流を更に図って行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ研修において外部評価について内容を取り入れた研修を行いサービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動を写真を用いて出席者に報告し意見をその後のサービスに反映するようにしている。		運営推進会議では自己評価の説明と結果を公表していく。又地域行事等の情報を得て地域との交流に活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの職員の来所を受けたり、又市の介護相談員の派遣を受ける等サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修等で学んだ内容をスタッフ研修をはじめ機会あるごとに職員に説明し、情報交換、情報の共有に取り組んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設立しその中で討議を行い、スタッフ研修やミーティング等で発表説明、防止に努めている。		定期的に委員会活動、研修をし全てのスタッフが注意を払い防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面談と見学をして頂き、契約時再度十分な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめに声掛けをし意見等言いやすいような雰囲気作りに努めている。	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力を行い利用者本位の運営を心掛けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各担当スタッフが記した日々の様子の解る記録や、写真、出納長のコピーを家族へ毎月送付報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年一回実施し、又面会時に希望、意見などを言いやすい雰囲気作りに努めている。意見箱も設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ研修時に機会を設けている。必要な場合はその都度意見交換をしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況やペースに合わせたローテーションを組んでいる。必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員に支援を受けられるよう最小限に抑えてある。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所全体の研修等を行い、働きながら現場でも育成している。PTの指導相談も行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同業者との情報交換や、地域の勉強会への参加を行っている。	スタッフが交代で地域での勉強会等へ積極的に参加するようにする。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間でストレスにならないよう情報交換や意見交換の出来る雰囲気作りをおこなっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の資格取得に向けた支援を行い各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格取得に向けた勉強会や勤務体制等、考慮されている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学にこられた時、本人が自分の気持ちを話すことが出来るようなスタッフの挨拶や雰囲気作りをし、ゆっくりと話を聴き気持ちを受けとめるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や訪問時、丁寧に話を聴き、納得され利用して頂いている。	入所前に必ず本人、ご家族とも訪問して頂く様おねがいし、不安な事や困っている事等を聞くようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活が可能と思える場合は、デイサービスやショートステイ等の利用の紹介をしている。		相談時本人やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案や他施設の紹介を行っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に訪問して頂き、不安なく生活して頂くように、信頼関係を築くよう行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	語り合いの中で本人の性格、身体状況を把握し、日常生活の中でより信頼関係を深めていくよう支援している。時には利用者から労わりや励ましの言葉を掛けてもらうことがある。		利用者は人生の大先輩であるという考えをこれからも共有し、お互い協同しながら穏やかな生活を送れるよう支援して行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望も尊重し本人や職員の思いを折に触れきめ細かく伝え本人を家族と一緒に支えていく。面会時は必ず情報交換などを行い接するように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後もよりよい関係が保てるよう家族の訪問しやすい雰囲気を作っている。又これまでの家族関係を知り理解するよう努めている。		家族とコミュニケーションを図り家族の訪問協力をお願いする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔話を聞いてその当時の人の話を聞くなど、一人ひとりの生活習慣も尊重しケアに役立っている。		現在の取り組みを継続していく。知人の訪問などの時昔の事を伺ったり一緒に話をしコミュニケーションを図り継続的な交流が出来る様にしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が関わり、利用者同士が和やかな雰囲気の中で生活し助け合っていけるよう配慮している。		利用者同士が助け合い楽しめるようなレクリエーション、会話などを考え実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ入所後も訪問するなど、又施設での行事等の案内を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ、言葉や表情行動等で真意を察するようにし個別ケアに繋げている。		入所前の面接時家族や本人から暮らしぶりや嗜好など詳しく情報収集をおこない支援に活かしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティング、全体研修を利用、センター方式を活用している。入所前後面接、面会時家族とコミュニケーションを図り情報や意向など聞いている。		利用後も本人の話や知人の訪問時生活暦等の把握に努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌の記録やチェック表を活用し把握を行っている。又記録をする時振り返り再確認している。スタッフ間の情報の共有にも努めている。		行動や動作、発語などから総合的に把握するよう努めていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリング等で課題検討をし家族とのカンファレンス全体研修、ミーティング時の意見を活用し介護計画を作成している。		利用者の意向に沿い、又意向を察した計画書にしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化や退院後等検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の飲食摂取量チェックや暮らしぶりや状態変化等個別に記録、申し送り、記録ノートを活用している。勤務前の確認は義務付けている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時や家族の都合により受診、通院の支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、保育園、幼稚園などへお願いし交流を図り、研修も受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	フットケア等の訪問サービスの紹介があるが本人や家族の希望がない。近隣のグループホームとは交流を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には出席して頂いている。訪問も受けている。必要時は協働できる状態である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に承認を得、かかりつけ医に相談、適切な医療を受けている。		必要に応じ家族と職員で協力し病院受診又は往診をお願いする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状況に応じ専門医や近隣の医師等に相談、治療、支援を受けている。		新たに受診した方が良い状況であれば家族と協力し受診相談している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医や当ディサービスの看護師に相談し日常の健康管理をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時や面会時や電話を利用し病院関係者との情報提供や交換を行い早期退院に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望を聞いている。本人や家族、かかりつけ医と良く話し合い全員で方針を共有してきた。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	理学療法士の指導やかかりつけ医、近隣の医師の協力を得、勉強会等で検討している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	フェイスシートを活用、文書や話し合いで情報交換し困った時は電話でもいつでも対応している。		家族と十分な話し合いをしてきている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に前向きな姿勢で職員間も気づいた時に注意しあえる関係作りに努め尊厳を大切に勉強会でも再確認している。	日々の関わりの中で利用者の誇りや、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事も強要せず、昔話を取り入れ本人の希望や力を把握、個人に合わせた支援を行うことに繋げている。	利用者の希望、関心、嗜好など個人をよく把握理解し日常生活の中でケアに生かしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	園庭、地域への散歩等利用者の気持ちに沿って出来るだけ行くようにしている。	利用者に合わせ充実した生活が送れるように支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を聞き家族にも好みの衣類等持参してもらって入る。要望があれば美容院にお連れしている。	本人、家族の要望に合わせて以前の生活、雰囲気でも援助するようにしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や表情を見ながら片付け(食器拭き)等を一緒にする。盛り付けや味付け等にも参加して貰えるよう努める。	スタッフも同じテーブルについて楽しく食事を摂っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に合わせた飲物、おやつを準備し提供し居室におやつを持っている方は喫煙などに気をつけている。	職員は一人ひとりの嗜好を理解し、本人の状態を見ながら楽しめるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の行動を理解し排泄チェックをおこない対応している。なるべくオムツはずしを行い本人が気持ちよい排泄が出来る様に支援していく。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に従い無理に進めることはしないが、清潔保持を考えながら対応している。本人のタイミングに合わせる事が出来るよう声掛けをしている。		本人の希望に沿いながら、生活保持も念頭においている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれ生活リズムに合わせて就寝時間がほぼ決まっているが、その日の気分体調により寝付けない時は、温かい飲み物やスタッフとの会話で対応している。		なるべく日中帯の活動を多くし一人ひとりの体調に合わせて考慮し安眠できるようにしている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔を思い出しての料理教室や工作、裁縫等のレクリエーションや行事参加等で生活に変化をもたせ楽しんでもらっている。		季節の良い秋、春にお弁当を作り遠足に行った事もあり、これからも楽しみや役割を見つけ、本人が生きることへの支援を深めていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のものの買い物に同行したり代理購入など、家族の了解のうえ行っている。		本人で支払いの出来る方は、財布より自分で支払いをして頂いている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調を見て声掛けをおこない散歩等を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一日遠足や園の行事、地域の行事等機会を作り支援している。また気分転換にドライブに出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの連絡にはいつでも対応し、こちらから家族へ連絡時本人と話される時もある。年賀状や手紙のやり取りをされることもある。		車や車椅子を利用し戸外へ積極的に出かけている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶を行い{いらっしゃいませ}の気持ちを常に持ちコミュニケーションを図り居心地良く過ごしていただいている。		面会者により各居室で談笑されるのを好む方、ダイルームで皆さんと一緒に好まれる方等それぞれ対応を考え行っている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動を設け、スタッフ研修等で取り組んでいる。		研修や日々のミーティングの中で話し合い、言葉での拘束等ない様確認をしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けずに安全に暮らせることの大切さを認識しており、オープンにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間状態の確認や声掛けを行い、24時間利用者の安全に配慮している。日中見守りや様子を察知出来易いように工夫し援助している。		職員は利用者の見守りの出来る同じ空間で記録し事務作業をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を把握、一律に片付けず検討し管理している。		全てを取り除くのではなく使用時の注意など危険因子は何か等確認している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	朝夕の申し送りや研修会などで情報の共有や知識を学び事故防止に取り組んでいる。又火災訓練も定期的に行い消防隊員による指導も受けている。		ユニット内でも情報や知識の面ではどんどん話し合いをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフ研修時又は必要時看護師で指導を行っている。		夜間を想定し応急手当など対応マニュアルを整備、周知徹底を図っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を受け防災訓練など行い、地域への声掛けもしている。	○	防災訓練を消防署の指導のもと平日にする為、地域の方の参加が少なく、如何に参加して頂くかが今後の課題である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化等に応じ状況を説明する等、日頃よりコミュニケーションを図り抑圧感のない暮らしに努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のミーティング、夕方の申し送り等でしっかり情報の共有をおこない日々観察をする中で早期対応に努めている。		日頃の状態を良く把握し表情の変化や異常に早く気づくよう努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係、薬のケース記録を作成しており新規の方や薬の変更時必ず全員に説明し理解している。		医療機関や看護職員に情報伝達を行い連携が図れるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の食物、飲料摂取を考慮し、運動を行い排便を促すように努め、排便チェックを行っている。必要時は主治医に相談をしている。		排便トラブルを起こさないよう常にスタッフが状態把握に努め、対応に取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや仕上げ等利用者に応じた支援をしている。		スタッフ全員が口腔ケアの重要性を理解し一人ひとりに応じた歯磨きの援助をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嗜好、栄養のバランス、飲水等考え一人ひとりに対応、献立も栄養士にチェックをお願いし指導を受けている。嚥下状態によっては刻み食にしている。		食の進まない時は摂取量チェックを記録し献立も工夫している。状態によっては食事介助を行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルをスタッフが理解し定期的に委員会活動を通じ研修、実行している。		全職員が学習予防している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理道具等消毒乾燥清潔に努め、買い物は隔日に行い新鮮で安全な食材と管理に努めている。		食材が無駄なく新鮮で安全であるよう努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に開放している。玄関やアプローチに季節感を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光の強い時はカーテン等を利用している。季節感は常に取り入れ居心地良く過ごせ、不快な音にも注意している。		色、光、臭い、音に注意しながら季節感のあるものを活用し四季を味わってもらっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみ部屋のコタツ、廊下のベンチ、椅子などを使用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持ち込んで頂いた使い慣れた家具や仏壇を置き、居心地良く生活されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず換気、温度調節に気をつけ利用者の状況にも合わせこまめに行っている。又ウイルス除菌の機器を設置し使用している。		外気との温度差にも注意している。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやトイレの場所など安全自立した生活が送れるよう工夫してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の目印等自分の居場所が解るようにしてある。夜間ポータブルトイレを使用する場合は位置に注意している。		どうしたらご自分で出来るのか状況にあわせ環境整備に努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時は中央デッキでお茶やレクレーションを楽しまれている。		広い庭、畑の活用、車椅子の方も活動できる環境を作っている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、記憶や出来る力を最大限生かして利用者様が自分らしく暮らせるように、職員一人ひとりが学び、利用者一人ひとりにハートのある支援と、ご家族がいつでも足を踏み入れ、ご家族や、利用者様が安心出来るような施設作りを目指しています。そのために私達職員は、ケアの在り方を振り返ることに取り組み、利用者様一人ひとりに合わせたケアを展開して行く事に努めています。又人生の大先輩として尊厳ある自立へ向けたケアを目指しています。